

1. 研究の目的・方法

本発表は、1970年代頃よりイギリスで始まった「コミュニティダンス」とは何かについて明らかにするものである。イギリス及び日本において、コミュニティダンスの実践は多様な形で展開されてきた。「コミュニティダンス」という言葉の定義も実践者によって異なっている。このことには、イギリスのコミュニティダンスが発展した経緯が関わっている可能性がある。

イギリスのコミュニティダンスは1960年代の「コミュニティ・アート・ムーブメント」を下地とし、青少年教育、コンテンポラリーダンス界からの要請といった社会背景から生まれたものである(稲田, 1999)。すなわちイギリスのコミュニティダンスは、特定の振付家やダンサーが始めた個別実践の拡がりや端緒ではなく、コミュニティ機能として期待されたものであった。またイギリスのコミュニティダンスは、ブリティッシュ・アーツ・カウンシル **British Arts Council** の助成や、コミュニティダンス財団 **Foundation for Community Dance** による財政的サポートなどを受けつつ発展してきた。この意味においても、イギリスのコミュニティダンスは、芸術的な実践というより文化政策として、制度や社会的機能の中で発展してきたといえる。

一方で、こうしたイギリスのコミュニティダンスに影響を与えたのが、ルドルフ・ラバンのドイツにおける1920~1930年代の実践及び理論である。ラバンは集団による舞踊の効果を主張して、それを「ムーブメント・クワイア(合唱舞踊)」、あるいは「ゲマインシャフト・タンツ(コミュニティ・ダンス)」という形で推し進めてきた。(Kew, 1999)(Preston-Dunlop, 2008)当時のワイマール共和国下において、集団舞踊への憧憬はラバンに限ったものではなく、またダンスのみならずさまざまな芸術家たちが、ゲルマン民族の統一的な新しい文化を求めて活動を展開していた。しかしながらこうした活動は徐々にナチス・ドイツの文化政策へと回収され、ラバンの実践もまた例外ではなかった。(Kew, 1999)

こうした経緯から浮かび上がってくるのは、近代国民国家の形成と関わり合う「コミュニティ」の考え方である。しかし一方で、イギリスにおいては「コミュニティダンス」がドイツ由来のものとは異なる意味を持って捉えられ、勃興し、展開されてきた。伝統的にアソシエー

ションの考え方が強いイギリス社会においては、そもそも「コミュニティ」という概念は色濃くなかった。しかし1970年代頃よりカウンターカルチャーの流れを受けて、移民や労働者の居住地域を拠点としてアーティストが活動する「コミュニティ・アート・ムーブメント」が始まり、その後80年代の新自由主義的な政治体制を経て、90年代に労働党政権によって、再びコミュニティダンスが文化政策として推し進められることになる。その目的は「コミュニティの再生」やソーシャル・インクルージョン(社会的包摂)といったものであった。

このようにコミュニティダンスの歴史的ルーツを明らかにすることで、コミュニティダンスの持つ多義性、及びそれによって芸術と社会の関係性に関する議論に一定の見解を提示できると考えられる。そしてこのことは、芸術と社会の歴史的な位相の考察を行うことに等しい。

2. 結語

以上の分析により、イギリスのコミュニティダンスについての歴史的・社会的経緯は以下のようにまとめることができる。

元来アソシエーション文化を尊重するイギリス社会にとって、コミュニティ概念を用いたダンスは新しい試みであり、こうした観点からコミュニティダンスへの着目へ繋がった。しかしダンスによってコミュニティを形成ないし再生することで、マイノリティを包摂することには、新たな排除を生み出すという異論もある。この異論は、ラバンが活動していたドイツの、その後の歴史的経緯を見ても妥当である。現在では「コミュニティ」ダンスと呼ばずに同様な手法を用いて実践を行う場合も多々存在する。こうしたコミュニティの包摂と排除、両面を捉え考察することは、昨今の「ソーシャリー・エンゲージド・アート **Socially-engaged art** (社会関与型アート)」における論点と関連し、芸術と社会の関係性を考察することにつながるものである。

3. 参考文献

- 稲田奈緒美. “英国におけるコミュニティダンスの発展と現状”. 『桜美林論考』10, 2019
- Kew, Carole. “From Weimar Movement Choir to Nazi Community Dance: The Rise and Fall of Rudolf Laban's "Festkultur"”. *Dance Research: The Journal of the Society for Dance Research* (17-2), pp. 73-96, Edinburgh University Press, 1999
- Preston-Dunlop, Valerie. *Rudolf Laban: An Extraordinary Life*. Princeton Book Co Pub, 2008